

和と力

7月号



売布小ホームページ

令和6年(2024年) 7月 1日

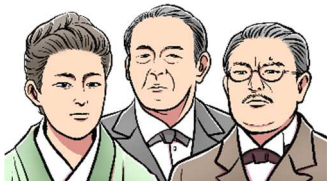
宝塚市立売布小学校

『勢衝青天攘臂躋 氣穿白雲唾手征』

勢いは青天を衝き臂を攘て躋り、氣は白雲を穿ち手に唾して征く

校長 藤山 昌生

「〇〇年ぶり」と聞くと、何となく心躍りませんか？ 去年は阪神タイガースが「38年ぶり」の日本一に輝き、大いに盛り上がりました。そして来年は、前回の昭和45年(1970年)から「55年ぶり」に大阪万国博覧会が開催されます。また、大谷翔平選手は「〇〇年ぶり」の記録という報道が多すぎて、何かに書きとどめておかないと覚えられないぐらいです。



「平成の次の時代は『令和』」と時の官房長官が発表したのと同じころ、時代がよりキャッシュレスに進んでいこうとする時代に、「新紙幣」「新貨幣」が発表されました。新500円玉はすでに流通していますが、受け取ると「あ、新500円玉だ」と思う反面、まだまだ使えない自動販売機などで苦勞することもありますね。

いよいよ「新紙幣」が7月3日に「20年ぶり」に発行されます。冒頭にも記したようにワクワクしてきます。説明は不要だと思いますが、壹万円札は「日本経済の父とよばれた男『渋沢栄一』*1」、五千円札は「6歳でアメリカに留学した女子教育のパイオニア『津田梅子』*2」、千円札は「近代日本医学に父・感染症対策の先駆者『北里柴三郎』*3」が新紙幣の「顔」となります。肖像だけをみると、壹万円札は約40年間「福沢諭吉」が務められてきたので、40年ぶりに代替わりします。日本銀行のホームページには、新紙幣の「偽造防止技術」と「ユニバーサルデザイン」が新しい日本銀行券の特徴として紹介されています。偽造防止技術には、4つの『分かる』として、触って、透かして、傾けて、道具でと、より技術が進んでいるようです。それは、ユニバーサルデザインとしての役割ももっているようです。

新壹万円札の顔、渋沢栄一は、「勢衝青天攘臂躋 氣穿白雲唾手征」(『内山峽之詩』の一部、「青天を衝き抜く勢いで腕まくりをして登り、白雲を貫く氣力で手に唾して進む」という言葉を残しています。それは、家業の藍の販売のために信州に向かう際に、切り立った峡谷で有名な内山峽(現在の長野県佐久市)を超える際に作った漢詩で、それは、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の題名にもなった有名なフレーズです。幕末から明治にかけての「大変革」の時代に、多くの難しい課題に負けることなく、逆転の発想でその都度アイデアや工夫で乗り越え、突き進んでいった渋沢栄一の生き方を表していると思います。生涯の中で、渋沢栄一が関わった企業や団体は500以上あると言われ、現在でもわたしたちの生活とのかかわりがつづいています。渋沢栄一の「みんなで幸せになることが、結局自分の幸せにつながるのだ。」という考え方や気持ちは、今の教育がめざしている、まさにウエルビーイングの考えをもって行動していたということでしょうね。

参考:*1『小学館版 学習まんが人物館 渋沢栄一』、*2『小学館版 学習まんが人物館 津田梅子』、

*3『小学館版 学習まんが人物館 北里柴三郎』表紙のキャッチフレーズより

展覧会等:貨幣博物館(東京)特別展「新しい日本銀行券 2024-匠の技とデザイン-」(~9/8まで)

お札と切手の博物館(東京)特別展「お札の誕生祭 新しいお札がやって来た!」(~12/22まで)

明治村(愛知県)企画展示「新紙幣発行記念! “ニューフェイス”をご紹介します」(~9/29まで)

